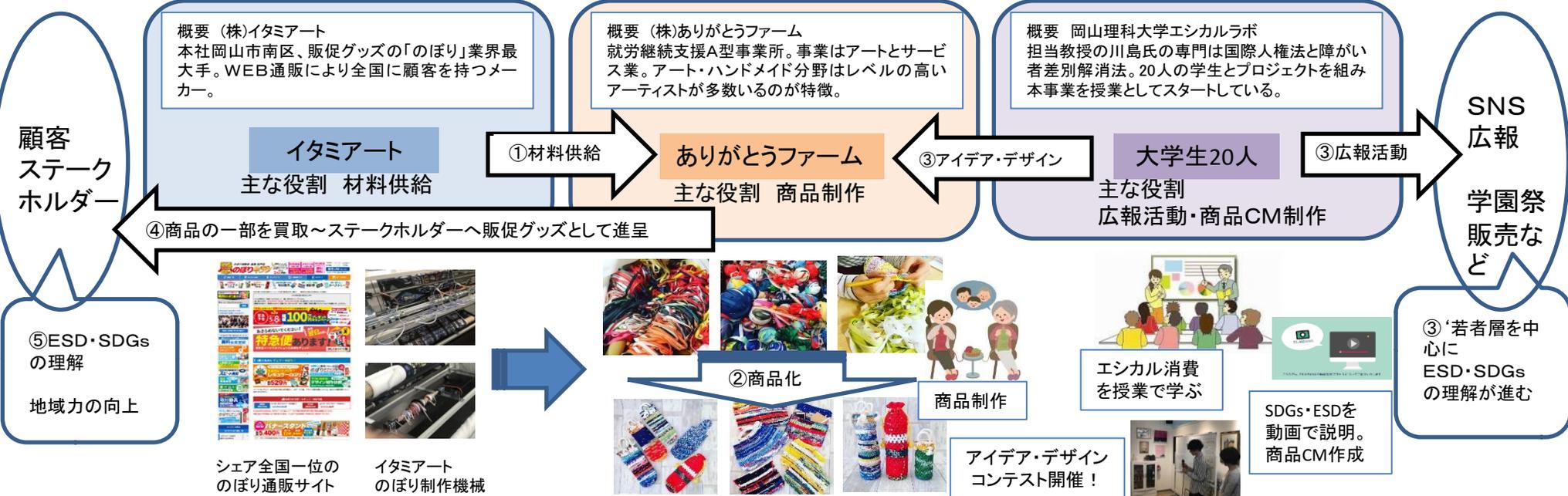


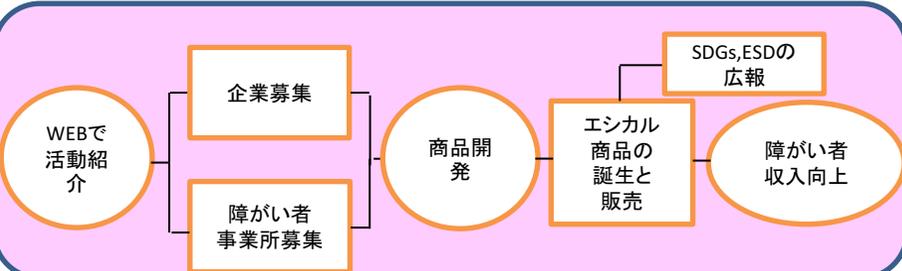
「障がいがあっても、いきいきと人生を生きられるように！」のぼり旗の端材を利用し、障がい者が商品化。企業、学生とのコラボ事業！

全国の障がい者の自立支援が目的。のぼりメーカー最大の岡山市本社の株式会社イタミアートが廃棄処分していたのぼりの裁断後のハギレ(幅5ミリ、長さ10メートル程度)を就労継続支援A型事業所の株式会社ありがとうファームで働く障がい者が手編みのバッグ・帽子・ぬいぐるみなどにエンカール商品化する。岡山理科大学エンカールラボがアイデア、デザインを障がい者とともて考案し、広報活動も行い若者層を中心にESD・SDGsの浸透を促す。また障がい者と若者の相互理解も深まる。イタミアートはCSR活動の一環としてその商品を買取り、お客様へのプレミアムグッズとしてプレゼントすることで社会貢献活動に役立っている。将来は希望する全国の障がい者施設へののぼりハギレを無償で提供し収入向上に役立っているという社会貢献事業を展開予定。

- プロジェクトの流れ説明
- ①石油を原材料として作られている「のぼり」のハギレを使用することで、環境保全・地球温暖化抑制に貢献。
  - ②ありがとうファームは寄付された廃材をブランド化し、障がい者の能力向上と収入向上を促し、自立を支援。内職仕事からソフト事業への脱却を果たす。
  - ③アイデアやデザインは大学生がありがとうファームの利用者と共に考案し、広報活動をおこないESD・SDGsの周知と販売協力を行う。
  - ④イタミアートが商品の一部を買取り、顧客中心にステークホルダーに販促グッズとして配布し企業活動の社会的理念・ビジョンを伝達。
  - ⑤もらった側はESD・SDGsの意味や背景を考えるきっかけとなり地域社会が啓蒙される。という好循環を生み出し「エンカール消費」の実現とESD・SDGsの理解促進に貢献します。



将来の展望～持続の可能性



環境・経済・社会への影響

**環境:** 商品の素材であるのぼりの原材料は石油であり、焼却処分の際には二酸化炭素・有害物質を放出している。リサイクルにより焼却処分せず材料の処分は長期にわたり延期が可能となり地球温暖化抑制となる。リサイクルによって商品化されたグッズを排出企業が買い戻すという発想はあたらしいカーボンオフセットとなることも考えられる。

**経済:** 障がい者が自分の収入を税金に頼らず得ることは社会保障費の大幅削減につながり、さらには彼らの自信、自立支援につながる。

**社会:** 共生社会・多様性社会の実現にむけて、障がいがある人もない人もともに協力しあって生きる社会が実現する。障がい者が就労継続できることは少子化・労働力不足対策として社会に資する人材として活用が可能になる。大学生の授業のエンカール消費に事業を組み込むことに寄り添った活動と大学生が持つネットワーク・SNSなどの広報ノウハウを活用し広くESD・SDGsが周知できる。